

平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年 4月 2日
研究・研修課題名	認定言語聴覚士の取得
研究・研修組織名 (所属)	リハビリテーション部 (所属：リハビリテーション科 総括責任者 馬庭 壯吉)
研究・研修責任者名 (所属)	間壁 史良 (所属：リハビリテーション部 主任言語聴覚士)
共同研究・研修実施者名 (所属)	間壁 史良 (所属：リハビリテーション部 主任言語聴覚士)

目的及び方法、成果の内容

① 目 的

言語聴覚療法は言語、音声、聴覚、摂食嚥下を専門領域とし、検査と評価、必要に応じて機能訓練を行うリハビリテーションの一領域である。平成10年より開始された国家試験にて年間約1500人の有資格者が誕生し、医療をはじめとして福祉、介護、学校教育、研究・教育機関などで活動している。療法的需要は年々に拡大しており、専門領域の中でも分野別において更に高い専門知識を有する言語聴覚士の拡充が求められている。この需要を受け、一般社団法人日本言語聴覚士協会（以下、本学会）では、高度な知識および熟練した技術を用いて高水準の業務を遂行できる言語聴覚士を養成することによって業務の質の向上をはかり、社会に寄与することを目的とし、平成20年度から「認定言語聴覚士」制度を定め、一定水準を満たす言語聴覚士を対象とした高等教育を行っている。分野別に現在、「失語・高次脳機能障害」、「摂食・嚥下障害」、「言語発達障害」、「聴覚障害」の4領域が設置されている。

摂食嚥下障害に対する知見とリハビリテーション技術は言語聴覚士の臨床において必須の専門領域であり、本学附属病院においても主要業務となっている。自己研鑽はもとより、言語聴覚療法部門の基幹業務の質的向上、地域医療における需要面から「摂食嚥下障害領域」を取得することを目標として準備を行ってきた。今回、最終認定要件である認定講習会を履修し、最終試験に合格することで、認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域）の免状を得ることを目的とする。

②方 法

認定要件は以下の通り。

- ① 言語聴覚士として満5年を超える臨床業務経験を有すること
 - ② 本学会の生涯学習システム専門プログラムを修了していること
 - ③ 本学会の平成29年度会費を納入済みであること
 - ④ 認定言語聴覚士講習会(全3回)の全日程を受講し、最終試験に合格すること
- 要件①②③は充足済み。本研修にて要件④の完了（認定士取得）を目指す。

③成 果

平成29年度の認定言語聴覚士講習会は予告通り開催された。

開催要項及び履修内容は以下の通り。

開催地（全3回共通）：

京都学園大学太秦キャンパス（京都府京都市右京区山ノ内五反田町18）

プログラム：

第1回：平成29年8月26日（土）・27日（日）

講義1「リスク管理」

大熊 るり（調布東山病院リハビリテーション科 医師）

講義2「気道管理、外科的対応」

堀口 利之 (北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻 教授)

講義3「がんのリハビリテーション」

安藤 牧子 (慶應義塾大学病院リハビリテーション科 言語聴覚士)

講義4「在宅における評価」

山本 徹 (永生会リハビリ統括管理部 言語聴覚士)

講義5「神経筋疾患に伴う摂食嚥下障害」

巨島 文子 (諏訪赤十字病院リハビリテーション科 医師)

講義6「頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害」

藤本 保志 (名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学講座耳鼻咽喉科学 准教授)

講義7「口腔衛生・補綴、口腔ケア」

大野 友久 (国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター 医師)

講義8「先行期障害へのアプローチ ～認知症・全般的認知低下～」

長谷川 賢一 (東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科言語聴覚専攻 教授)

(敬称略)

第2回：平成29年10月14日(土)・15日(日)

講義1「訓練のための運動理論」

才藤 栄一 (藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション医学I講座 教授)

講義2「VF・VEで嚥下動態を評価する」

大前 由紀雄 (大生水野クリニック耳鼻咽喉科 医師)

講義3「高齢者の摂食嚥下障害・全身管理」

藤谷 順子 (国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院リハビリテーション科 医師)

講義4「栄養・NST」

伊藤 彰博 (藤田保健衛生大学外科・緩和医療学講座、臨床栄養学(NST) 准教授)

講義5「小児の摂食嚥下障害」

椎名 英貴 (森之宮病院リハビリテーション部 言語聴覚士)

講義6「脳血管障害に伴う摂食嚥下障害」

藤島 一郎 (浜松リハビリテーション病院リハビリテーション科 医師)

講義7「全体評価」

清水 充子 (埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科 言語聴覚士)

講義8「評価演習」

倉智 雅子 (新潟リハビリテーション大学大学院リハビリテーション研究科 教授)

(敬称略)

第3回：平成29年12月2日(土)・3日(日)

講義1「訓練①・訓練実技①」

稲本 陽子 (藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション学科 准教授)

小島 千恵子 (元・聖隷クリストファー大学言語聴覚学科 教授)

講義2「訓練実技②」

稲本 陽子 (藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション学科 准教授)

講義3「吸引・吸引実技」

藤森 まり子 (聖隷三方原病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師)

講義4「嚥下障害の呼吸評価と呼吸理学療法実技」

宮川 哲夫 (昭和大学大学院保険医療学研究科呼吸ケア領域 教授)

講義5「訓練②」

清水 充子 (埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科 言語聴覚士)

(敬称略)

症例検討

修了試験

本年度の「摂食嚥下障害領域」は全国から約50名が受講した。普段の所属先は病院8割、介護保険施設1割、教育施設1割ほどであった。病院の医療機能別では急性期病院に所属する者が半数以上を占めた。国立大学病院からの受講者は本研修者を含めて2名であった。

ガイダンスとして、本講習は一定の臨床経験を積み現場の中隔を担うべき言語聴覚士を対象としていること、卒後一定の経験を積んだ言語聴覚士が持つべき知識・技術の水準を明確に示すこと、開催時点における言語聴覚療法の最新知見を集約した集中講義であること、全日程を修了し、習熟度試験の結果と総合判定によって認定合格者を選出する、といった方向性が示された。講義及び試験に関する詳細は非公表となっているため記述を控える。

所定の講義を全て受講し修了試験に合格したことで、学会の定める認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域：第 撰-17-036 号）を取得した。今後は本領域における活動実績により 5 年毎の資格更新を義務付けられる。認定士としての知見を当院の臨床・後進育成・研究活動に還元しつつ、学術大会や全国研修会に積極的に参加して資格を維持し、摂食・嚥下リハビリテーション水準の更なる向上と充実に寄与していきたい。

<p>* 一般社団法人 日本言語聴覚士協会 認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域） 受領【2018年1月14日】</p>
--